

火曜日

杉山心

緑色の、エメラルドが。

滝から、滝から、滝から流れ落ちていた。

ヒョウ柄の羽織に、大鷲のまっすぐな羽をつけて、点けたその午後の、もんしろちよの幼虫の火を、指先を、吊り上がった糸巻の黒目が見つめている……

這って行く道にさえ戻れないほど

粒のようなその足がコンクリートを燃やしつくして、

膨れ上がったたしかな黒髪が、

木製の壁を強くしていた。

その町には、雨が降らない。